

議 長	局 長 等	次 長	リ ー ダ ー	担 当	合 議
決 裁					 

令和6年7月16日

養父市議会議長 様

養父市議会議員 深澤 巧

政務活動概要報告書

政務活動の概要を下記のとおり報告します。

記

- 1 活動 月日 令和6年7月2日、8日～9日
- 2 活動 場所
 - ① 養父市役所3階 第一委員会室
 - ② グンゼ博物苑・記念館 (綾部市青野町)
 - ③ 琵琶湖疏水記念館 (京都市左京区南禅寺草川町)
- 3 活動 目的

会派研修会・管外研修

「養父市の産業歴史と先人の功績について」

 - ① 研修会 「北垣国道の人物像と功績」
 - ② 綾部市 「近代養蚕業の隆盛と養父市 まちのなりたちについて」
 - ③ 京都市 「琵琶湖疏水 日本の近代化と北垣国道・島田道生らの功績」
- 4 活動 内容

3日間にわたり、下記の方より講義・案内説明を受けた。

 - ① 養父市社会教育委員長
北垣国道研究会 代表 村上 義隆 氏



② グンゼ株式会社 博物苑 天橋 歩 氏

③ 京都市 上下水道局 神吉 崇司 氏

琵琶湖疏水記念館 資料研究専門員・学芸員・博士

久岡 道武 氏

5 活動成果

① 研修会 「北垣国道の人物像と功績」

能座在住の村上 義隆 氏は民間会社定年後、関西学院大や立命館大にも通われている北垣国道の研究の第一人者である。

今回の講義では、特に青年期での「生野の変」「戊辰戦争」への参画を通じ、後の政治家、行政官としての北垣の人間性や信念がどのように形つくられたかを明治維新前後の激動の時代背景を絡めて講義していただいた。

北垣は池田草庵門下では異端の行動派であった。その後、京都府知事、北海道長官として日本の産業勃興、民生事業に身を挺した姿がよく学べた。日本の近代歴史の主役の一人として描かれてもよい人物であるとの再認識ができた。その人物像と精神は、今後においてさらに養父市郷土の先人として、生徒、学生など若い人達に伝承すべきものがある。

② 綾部市 「近代養蚕業の隆盛と養父市 まちのなりたちについて」

グンゼ博物苑 天橋 歩 氏から詳細なグンゼの会社沿革と特に創業者の畑多野 鶴吉氏が綾部、北近畿での蚕糸業振興にかけた企業人としての理念について説明を受けた。その中には、これまで知ることがなかった鶴吉の青年期の放蕩な生活から立ち直る生き様なども率直に示され興味深いものもあった。

「郡是」の社名の由来は「郡」当時の綾部の何鹿郡の地域を指し、「是」は方針、すなわち地域の進むべき道を社業の理念としたという。文字通り地域振興を社是の第一としたということである。

大正3年に八鹿、7年に養父にも工場が開業され、昭和にかけ八鹿工場では若い女性をはじめ最大1,000の従業員が在籍していた。推定ではあるが当時の養父郡での地域経済、まちの成り立ちに計り知れない貢献をしている。明延、中瀬での鉱山業とともに現在の養父市に至る市の産業歴史の認識を深めることができた。

今日の市の産業振興施策にそのような理念が継承される奨励施策を議会において提案していきたい。

③ 京都市 「琵琶湖疏水 日本の近代化と北垣国道・島田道生らの功績」

京都市上下水道局での疏水業務の概要と記念館内資料の丁寧な館内説明を受けた。琵琶湖疏水は明治遷都以後、没落した京都経済を発電業、市電運行開始、大阪への舟運業などを基にして産業復興させ日本の近代化にも大きな役割を果たした。50年近く前の学生時代に毎日利用していた京都路面電車の風景がよみがえった。

現在ではインバウンドをはじめ疏水観光が注目されているが、今日も京都市民約150万人の水道水源であり、市民の命の水として京都市民に親しまれている。

京都市内小学校では4年生で疏水事業の副読本が配布されて学習し、児童は記念館見学をするという。その後、学習成果として児童たちが「琵琶湖疏水新聞」の作成をする。その感想文は毎年全市的なコンテストが開催されている。北垣国道や田辺朔郎を『きょうとをすくった人物』『未来へつながる琵琶湖疏水』とタイトルされるような小学生の新聞は令和5年度にも約2,500の応募があり、その一部が展示されていた。京都の多くの小学生は養父に生まれ育った国道を自分たちの先人として称える教育を受けていた。

特に、議会の一般質問の問答であった北垣の知事時代の人物像を推し量る資料の存在について尋ねたところ、知事在籍中の日記が存在している。また近日中に北垣国道が関わる研究本も発刊されるとのことであった。市の教育委員会、歴史文化財担当部局には更なる調査などを薦めていきたい。

【その他】

養蚕・生糸の関わりで上京区にある西陣織会館を訪問した。西陣織工業組合常務理事兼館長の大槻ゆづる氏から約1時間の館内説明と手織、繭座繰りの実演が見学できた。かいこさんの最高水準工芸品といえる十二単など西陣織製品の目を奪うような精微、華麗、高価な世界に触れる貴重な体験もできた。

以上

決	議 長	局 長 等	次 長	リ ー ダ ー	担 当	合 議
裁						 

令和6年8月22日

養父市議会議長 様

養父市議会議員 深澤 巧

政務活動概要報告書

政務活動の概要を下記のとおり報告します。

記

- 1 活動 月日 令和6年8月21日
- 2 活動 場所
京都 J Aビル 会議室
(京都市南区東九条西山王町1)
- 3 活動 目的
(株) 廣瀬行政研究所 地方議会セミナー 受講
(午前10時～午後17時)
- 4 活動 内容
研修テーマ
「自治体にとっての少子化問題を考える」
講師：筒井 淳也氏 (立命館大学 産業社会学部 教授)
- 5 活動成果
研修会 内容
① 少子化の動向と政策
1 人口・少子化をめぐる基礎的知識
2 少子化の現状と要因：未婚・晩婚化



- 3 各国の動向
- 4 なぜ政策は子育て支援に偏るのか
- ② 自治体データからみる人口動向
- 5 自治体出生率施策の誤解を解く
- 6 出生率が高い自治体とはどんな自治体か
- 7 「人々の将来見込」から少子化を考える

以上、7コマの講義を受けた。

家族社会学的な立場から、前近代～近代～現代までの人口と少子化の変遷と課題について詳細なデータを基にした研修であった。

出生率の置換水準は東南アジア、韓国など急激に経済成長した国々では激減している、という指摘があった。

特に日本でも20才代での結婚 出生率の大幅な低下があり、30代の有配偶出生率をもってカバーできていないことが顕著である。20才台女性人口が将来的、絶対的に回復が見込めないなか出生率の動向だけに目を奪われることは「少子化施策の陥るワナ」とされる。

出生数の三大要因とされる人口、有配偶率や特に有配偶出生率もこの10年間でマイナス要因となった。「絶望的」とみる内閣府の経済財政報告もある、とのこと。

「30才前半男女の所得額ごとのその後の結婚割合」という独自資料が示された。結婚割合が4割を超える層は男性で年収300万円から400万円、500万円以上でも約44%。女性での4割超えは年収200万円～300万円、500万円以上で47%。少子化の最大要因は若年層の経済的、収入の低さにある。

これまでの少子化対策は有配偶者対象の子育て支援（保育などへの現金給付）に目を奪われ、若者（特に独身者）対象の経済的な支援施策は注目されていない。

各自治体においても注目されがちな「こどもの引力」で政策成果を誇示することが首長の政治力として比較されている。国の少子化対策、こども家庭庁の参画有識者である講師においても「こどもを真ん中」は重要な価値観であっても、少子化対策にはならないという認識である。

近年のデータで出生率が上昇した自治体が全国で4.7%ある。他20.6%が維持、74.9%が下落。その4.7%は、ほぼ小さな人口規模自治体とされる。特に非

都市部（過疎地など）では製造業、建設業の存在が大きい。介護、医療、公共機関での雇用確保、そして大都市部からのリモートワークの誘致に期待する、とされた。

人口減少、少子高齢化対策と子育て支援施策は裏表のようで一面非なるもの、すべてでないという認識を得た。養父市においても「少市化の中での超少子化」は避けて通れない。地元製造業や医療福祉を地域経済循環の基盤とし、それら民間企業・事業体への支援を充実させること。市内若年層が安定した収入を得られる地域雇用に政策力点を置くことが肝要と考えた。

以上